

MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌

2024年1月

第9号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所

発行人／錦 秀見

編集／教区教化委員会メディア部会

印刷／プラザー印刷株式会社

三河地域教化センター活動紹介

三河別院紹介

三河すーぱー絵解き座活動紹介

てら活（お寺の活動紹介）

岡崎教区青少幼年教化通信

三河地域教化センター活動紹介

〈主幹〉

第30組 高福寺

中根 慶泉



岡崎教区では教区内4別院に「地域教化センター」という組織が置かれ、それぞれ教化事業を行っています。今回は三河別院を拠点とする三河地域教化センターの活動を紹介します。

◆ 行事部

今回初開催であった「別院さんの土曜法話会」は、以前より地域で連続の聖教学習の機会を希求されていたため、僧侶・門徒及び一般の方が入門しやすい聖教として『歎異抄』を選定し、全3回で開催しました。

第1回を4月15日(土)、第2回を5月13日(土)、第3回を6月24日(土)に、三河別院の庫裡にて、講師に藤元雅文氏(大谷大学准教授・岡崎教区第35組寶徳寺住職)をお招きし、行いました。テーマは「歎異抄(師訓篇)に聞く」ということで、第1回は前序、第2回は第1章、第3回は第2章

を内容として法話をいただきました。

また、7月21日(金)・22日(土)に「なぞとき別院めぐり」を開催しました。本事業は別院主催の盆踊りに、多くの子どもが参加されることから、謎ときを通して「お寺や仏教にふれてもらおう」という試みで初めて行いました。

◆ 儀式部

これまでセンターでは、葬儀執行の仕方や葬儀の伝統的な面を学んできました。仏事が簡略化されていく中で、葬儀を執行する者として大切にしていきたいことを確認したいという願いのもと、「真宗の葬儀」講習会を開催しました。

第1回は5月24日(水)、講師に梶原敬一氏(姫路第一病院小児科部長・真宗大谷派僧侶)をお招きし、「願生彼国」～「願心荘嚴」浄土から浄土へ」をテーマに、第2回は7月24日(月)、講師に佐野明弘氏(大谷専修学院院长)をお招きし、「お育てに預かる」をテーマに、第3回は9月14日(木)、講師に中根正行氏(第25組正信寺住職)をお招きし、「寺院葬儀の式支配について」をテーマに講義が行われました。

第1回・第2回は葬儀の願いや意義を学び、第3回は寺院葬儀の儀式作法を学び直す講習会になりました。

◆ 広報部

センターの教化事業を伝えるツールとして「三河地域教化センターだより」第11号を8月に発行しました。次号は2月に発行を予定しています。併せて、別院行事等も案内・報告をさせていただきます。



「真宗の葬儀」講習会
講師：佐野明弘氏



別院さんの土曜法話会
講師：藤元雅文氏

三河別院紹介

三河別院は、真宗大谷派の三河地域の別院です。三河地域は宗祖親鸞聖人とのゆかり深く、蓮如上人の熱心な説法により早くから大きな真宗門徒の勢力を築いた地です。三河別院は長い歲月の中を門徒とともに生き、その役割と使命を果たしてきました。

「御坊」から「別院」へ

江戸時代、地方の門徒のお世話をする真宗大谷派の拠点として、「御坊」がありました。御坊とは、17世紀以後、本山に準ずる格式として設けられた寺院で、明治時代になると、「御坊」の名称は「別院」と改められ、それが今日に至っています。

やがて18世紀の後半、海上交通の要路でもあった西三河南端、赤羽に赤羽御坊が建立されます。しかし、天明8年（1788）に本山が焼失したため、その支援をおこなう三河の拠点として東海道沿いの暮戸くれとに会所が設置されました。以後、この暮戸が西三河の中心的な拠点となっていくます。

明治になり、本山両堂再建のために赤羽別院と暮戸説教場（会所改め）を岡崎に移し、三河

別院とするという通達が、こんたよまうじん 厳如上人御讓職前日の明治22年（1889）10月6日に出されます。しかし、地元門徒が存続を願い出たため、赤羽と暮戸からの移転は取り止めとなります。その代わりに、丹後たんご峯山別院の本尊を移して三河別院となし、明治23年（1890）4月8日、御入仏法要が厳修されました。

その後、数々の変遷を経ながらも、三河別院は当地随一の念仏道場として、僧侶門徒の育成や教学振興、幼児教育、布教伝道活動などに大きな役割を果たしてきました。

ひらかれた別院として、地域とともに、門徒とともに

第二次世界大戦中、本堂が焼失。再建と境内地の整備が完了したのは、昭和63年（1988）のことです。その感謝法要の厳修を機に、とくに、①別院の年中行事の手引きをつくり、法要儀式、荘厳などが寺院の法要儀式荘厳教化の参考になることを期すこと（儀式執行の面）②寺族子弟の声明および諸作法習得の場として研修制度を設けるとともに、門徒の方々への声明指導並びに寺院の法要儀式の助勢を行うこと（僧侶および門徒の教化育成の面）、の2点に力を注いできました。また「ひらかれた別院」を願い、夏の

盆踊り大会や講演会、各種展覧会等を定期的にひらき、地域社会に密着した交流活動を図りながら、次代に求められる別院像を模索してきました。

今後も三河地域の寺院門徒の教化の中心地となる別院をめざし、歩を進めてまいります。



三河別院本堂外観



三河別院報徳会



三河別院盆踊り大会

三河すーぱー絵解き座活動紹介

第11組本澄寺
なまの
あきひと

柵野 明仁

住所…西尾市楠村町

南側93番地



三代目市川猿之助のスーパー歌舞伎になぞらえ、2005年愛・地球博開催時に「三河すーぱー絵解き座」を旗揚げ。もともとは、蓮如上人御遠忌を2年後に控えた1996年、隣寺でもある浄徳寺前住職の太藤順誼氏に「本山の蓮如上人500回御遠忌に乗り込むぞ」と誘われたことが活動のきっかけである。その後、1998年の御遠忌厳修時に絵解きの有志が蓮如上人御絵伝を引っ提げて枳殻邸で一週間、絵解きキャラバンを実行した。

近年の活動としては、2021年以降、聖徳太子御絵伝の絵解きのため聖徳太子1400年御遠忌大法会厳修時に聖徳太子御廟がある磯長の叡福寺に、また、慶讃法要に聖徳太子1400年を重ねた西本願寺と高田派本山専修寺に招待され、出講した。

絵解き座の活動には様々な立場の方が関わっ

てきた。愛・地球博直前に「西端生れ西端に嫁ぎ西端の如光さん^{※①}を語りたい」という思いをきっかけに参加された堀江邦子氏が、2018年に蓮如上人三河御在庵550年を記念し、碧南市西端応仁寺^{※②}で蓮如上人の絵解きを披露した。また2021年、聖徳太子に魅了された大村美恵氏が龍谷ミュージアムで絵解きに立ち、直ぐ後で井内繁俊氏が熊野観心十界曼陀羅を絵解いてみせた。お三方共に在家の絵解き士である。今後の予定としては、2025年に開催予定の大阪万博に「聖徳太子・蓮如上人を語らずして大阪万博なし」との思いから、すーぱー絵解き座としてエントリーしている。

近年、三つの事を再確認した。①絵解きの町・三河。②聖徳太子を起点とした三河の真宗。③親鸞聖人御絵伝・御伝鈔の秀逸さである。碧南市西端応仁寺には宗祖、蓮師をはじめ、太子法然上人に釈迦如来御絵伝も所蔵されてきた。三河三ヶ寺が太子寺院であることは言うまでもなく、西尾には太子御絵伝が大谷派5力寺に所蔵され、いずれも江戸後期作であることは、江戸後期に西尾に太子ブームが起きた証ともいえる。なにより宗祖御絵伝は比類なき、絵解きさ

れるべき御絵伝である。我田引水の話ではない。宗祖御絵伝に魅了されて早30年、今年も全国の報恩講で御絵伝に向き合い、新たな発見あり。今後も出あい続けるでありますよう。

尚、絵解き座では毎月第一水曜2時より公開絵解き学習会を行っております。貴方も是非絵解きの世界へ。

※① 碧南市西端生まれの僧侶。蓮如上人の門弟。
※② 蓮如上人が三河地域での布教の拠点とされた寺院。



実際の絵解きのようす



「ほっこり法話カフェ」

第31組 蓮福寺 馨 敏郎

住所：掛川市肴町6番地

自坊本堂を会場に「ほっこり法話カフェ」という法話会を、2012（平成24）年11月から、月1回、続けています。一言で言えば「みんなが集まるための、ジャンルを問わない講話会」です。参加者は、自坊のご門徒さんに限りません。市内シニア世代の方々を中心に、遠くは市外から電車に乗って通われている方もあります。当初は、さまざまな宗派・宗教の「法話」がメインでしたが、途中から地域で話題となっている一般の方の活動報告や熱い思いをみんなに聴いて共感するための会を設けるようになりました。宗教のお話、一般の方の話題―両方があって、長く継続していくことができているのだと実感しています。

10年前は、「コーヒー・ケーキ付で参加費1500円」という設定の頃もありました。常連さんにとって負担になりくいワンコイン（500円）設定、スイーツもお持ち帰りのできる季節ごとのお菓子（300円程度）に変更、お菓子のセレクトも地元の土産物販売店さんにお任せするようになってから、運営が軌道に乗りました。公共駐車場利用者への補助チケット、講師礼（3000円）と記録手当（3000円）等を捻出すると、参

加費はほとんど残りません。チラシ・ポスター制作費と遠方講師の旅費等は完全持ち出しですが、10名ほどの運営スタッフのお力添えで、毎回40〜60名程の方が参加してくださっています。

「ほっこり法話カフェ」が、11年も継続できている理由を考えてみました。SNS（Facebook）を使って、お話の内容予告と当日の楽しそうな様子の写真報告を心掛けていたら、お手伝いしてくださるスタッフの方が徐々に増えていきました。九州ご出身の司会者、お茶を入れてくださる曹洞宗のおっさま（自称「茶坊主」さん）による3分法話、受付スタッフの細やかな配慮、参加できない方用のYouTubeアーカイブの記録製作、唱歌斉唱の伴奏を担当くださる音楽家デュオの御二方…、皆さま実に様々な業務に分かれて場を盛り上げてくださっています。わたしは、来場者超過によるお菓子の不足分を買い足しに自転車で走ります（笑）

そして、参加者増大の一番の原因となったのが、「ほっこりレポート」。観光協会にお勤めの素敵な女性が、「イタコではないか!？」と講師から評されるほど正確な要約レポートをご提供くださいます。それを基に「ほっこりレポート新聞」を印刷・

配布させてもらっています。来年あたり、これまでのレポートを一冊の本にまとめたいと考えています。



↑「ほっこり音楽部」のオープニング音楽：季節に合った唱歌の伴奏にあわせて、参加者が合唱します。



↑スタッフ写真：全員ではないですが、多彩な顔触れ。法多山のご住職を講師にお招きした記念回です。



↑開催日には、本堂正面に横断幕を掲げます。



↑定型のチラシとお菓子＆お茶セット



←記念撮影：まちづくり系の元気のある方の回。講師によって参加者の顔ぶれが変わります。

岡崎教区 青少幼年教化通信



第31組 圓満寺
鬼頭 衛 (1978年生まれ)
住所：掛川市掛川459番地

第31組圓満寺さんの青少幼年教化の取り組みについて、住職の鬼頭衛さんにお話を伺いました。

「圓満寺さんの子ども会は誰が始められたのですか？」

もともと圓満寺は裁縫女学校を運営していましたが、父の代までは教員をしていたので子ども会などをする時間が持てなかったと思います。周りに門徒さんは少なく、子どもも私の時代から見ればずいぶん少なくなりました。

そういう状況でも何かできないものかと思いつつ、時間だけが過ぎていく中、数年前に教化委員会の青少幼年教化部会の方とお話しする機会がありました。子ども会について相談すると、「まじめに考え過ぎなくていい、はじめから完璧を求めちゃいかん。住職が楽しくなかったら続かないから。お寺に人が寄ることが大事だよ。」と当時の部長さんに背中を押してもらい、難しく考え過ぎず、楽な気持ちで始めることができました。

「子ども会の周知の方法は？」

近所には口頭で、その他はすべてSNS(LINE・Facebook・Instagram)を活用しております。私は得意ではないので、若い子に任せています。(笑)
「スタッフ体制はどうなっていますか？」

お寺のある自治会の若い子を巻き込んで運営して

います。基本的にお寺の行事だからとご門徒に何かお願いしていません(参加者としては大歓迎です)。

当初は準備が大変でしたが、回数を重ねることにスタッフが目録のテントや巨大プール、スイカ割り、花火などを持ち寄ってくださるのでお寺の負担はどんどん減り、逆に子どもの楽しみはどんどん増えています。すべて用意するのではなく「場」を整えれば、自然と「人」が集まり、そこに笑顔が生まれるんだなと感じております。

「開催頻度はどの程度ですか？」

基本的には夏に1回の開催ですが、去年はスタッフと話し合って5月頃にフリーマーケットを開催しました。10店舗の出店者とキッチンカー、射的やメダカすくいなども行い、長らくコロナ禍で制限された生活をしてきた親子さんたちに非常に喜んでいただきました。こちらは完全に

「場」の提供をしただけで、地域のみんなで作り上げたご縁の賜物でした。

「参加対象は？」

特に対象は制限しておらず、近所の方はもちろんSNSを通じて来られた方や、たまたま通りかかった



日程例	
11:00頃	住職による嘆仏偈のおつとめ
終了次第	流しそうめん バーベキュー プールなど
19:00頃	花火 終了後解散



方でも大歓迎です。お寺がご縁をつなぐ場になることもあるようで、嬉しいですね。

「子ども会をして思うこと、感じることはありませんか？」

自分は自発的に青少幼年教化をしたいタイプではありません。誰かやりたい人、お寺を使えることに面白味を感じてくれる人がいるのでやれていると思います。仲間を見つければ、お寺が何でもやらなくてもよくなります。活動については、老若男女来てくれて楽しそうだからそれで良いのかなと思います。お寺がみんなの居場所になれば良いと思ってやっています。そういう場合は常と必要とされているのではないのでしょうか。

〈岡崎教区青少幼年教化通信について〉

このページは教区教化委員会の青少幼年教化部会に協力いただいています。部会は、活動の環として寺院での青少幼年教化の取り組みを取材しており、「岡崎教区青少幼年教化通信」は、その内容をまとめたものです。今後ますます活動事例を紹介してまいります。

みんなの掲示板 おいでんみりん

日 日時 会 会場 講 講師 内 内容 テ テーマ 持 持ち物 費 参加費 対 対象 問 問合せ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、急ぎよ変更となる場合があります。

教区

「2022年度版

『真宗大谷派青少年教化指針』

学習会

日 1月17日(水) 15時～17時

講 杉原 隆氏

〔真宗大谷派青少年教化指針〕
編集スタッフ、青少年センター
幹事、名古屋教区第27組(慶寺)

費 無料

持 2022年度版『真宗大谷派青少年教化指針』、『子ども開設の手引 ひとりからはじめる子ども会』、筆記用具

会 岡崎教務所

☎ 0564-221-2136

「得度研修会」

日 第1回 2月23日(金)

10時～16時30分

第2回 3月27日(水)

10時～15時

※2回ともご出席ください

費 1回20000円

※持ち物等、詳細は教区通信12月号
同封の参加募集をご確認ください。

会 岡崎教務所

☎ 0564-221-2136

団体

「第1回公開声明講習会」

日 1月31日(水) 14時～16時

講 藤原 忍氏 (本願部定衆)

テ 声明の歴史と調声伝

費 5000円

(声明研究会会員の方は無料)

持 真宗大谷派声明集、間衣・輪袈裟
(以上2つは有僧籍者のみ)

会 岡崎教務所

☎ 0564-221-2136

「第2回 坊守1日研修会」

日 2月6日(火) 10時～15時

講 真城 義磨氏 (真宗大谷学園専務理事、四国教区善照寺)

テ 本願念仏の教えが私にまで届いた
(第2回)

会 岡崎教務所

☎ 0564-221-2136

組、有志で公開学習会の案内掲載
希望の場合は教務所へお問い合わせ
してください。『MAST』は年3回
の発行予定です。紙面の都合で、
掲載できない場合があります。

地域

赤羽地域教化センター

「装束作法研鑽会」

日 1月19日(金) 13時30分～15時30分

内 七条袈裟のつけ方及び差異着用の
仕方

講 織田 頭慶氏(第8組宿縁寺)

費 無料

持 七条袈裟、修多羅、差異、敷紙
服装：間衣、輪袈裟、略念珠

会 赤羽別院

☎ 0563-721-2308

東三河地域教化センター

「聖教学習会 歎異抄に聞く」

日 1月26日(金) 14時～16時

講 平原 晃宗氏(大谷中・高等学校
宗教科講師、京都教区止蓮寺)

テ 歎異抄第10条

費 5000円

会 豊橋別院

☎ 0532-521-5083

静岡別院

「別院さんの公開講座」(法話)

日 2月13日(火) 14時～16時

講 本多 雅人氏(東京教区蓮光寺)

テ 自己満足と自体満足

費 無料

会 静岡別院

☎ 054-253-1737

※内容は変更となる場合がございます。
詳細は教区・団体については教務所、
地域については各別院までお問合せ
ください。

『MAST』表紙写真募集のお知らせ

『MAST』は年3回、1・5・9月に発行しており、先月号から表紙写真を教区の皆さまから募集しております。

次号第10号は5月の発行となります。写真撮影が趣味の方、ぜひお持ちの写真をご提供ください。

お待ちしております。

※都合上、提供いただいた写真を

使用できない場合もございます。

【提供方法】

岡崎教務所のメールアドレス：

okazaki@higashihonganji.or.jp

宛てに写真のデータを添付して

ご送付ください。



これまでの表紙写真

住職任命

第1組 浄専寺 三浦 良見

第7組 等周寺 天野 智之

第7組 浄専寺 安藤 弥

第23組 聞名寺 永田 誓

松平組 信光寺 本田 龍樹

〔2023年8月28日任命〕

第7組 正覺寺 石川 滉希

〔2023年9月28日任命〕

第21組 法林寺 亀山 明至

第31組 長圓寺 佐々木 敬

〔2023年10月28日任命〕

編集後記

早いもので『MAST』の編集後記を書くのも二回目となります。ここ数年で寺院ひいては仏教界を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。いや、世の中そのものが積尊の仰るようになっていることなく変化しているのでしょう。変化の荒波の中、道を見失わないように進路を定め、前に進むためにマストに帆を張っていききたいと思っています。

(編集…なかね)

法語

苦悩とは、本当の願いが
はつきりしないことが原因です

和田 稠

わだ しげし
和田 稠

1916年(大正5年)～2006年(平成18年)石川県生まれ。大谷大学卒業、石川県立大聖寺高校校長等を歴任。

※この法語は『日めくり法語 一語一遇』(東本願寺出版)より抜粋しました。

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所 (MAST担当) okazaki@higashihonganji.or.jp



生まれの意義と
生きる喜び

見つけよう、

～生活の中心に南無阿彌陀仏を～

岡崎教務所 ☎ 0564-22-2136



岡崎教区ホームページ



岡崎教区facebook